

# SHOW HEYシネマルーム

★★★★★

## アイ・アム・サム (I am Sam)

2002 (平成14) 年6月9日鑑賞

Data

監督：ジェシー・ネルソン

出演：ショーン・ペン/ミシェル・

ファイファー/ダコタ・ファ

ニング/ダイアン・ウィース

ト

### 👁️👁️ みどころ

7歳の知能しかもっていない父親のサム。そのため、7歳を迎えた娘ルーシーは施設へ。そこでサムは、無料奉仕の敏腕美人弁護士と共に「親権」をめぐる激しい法廷闘争を展開。この中で見える心温まる人間像はすばらしい。

— \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \*

#### <涙を誘う父と娘の愛情物語>

予告編を見た時から「この映画は泣くかな・・・？」と思っていた。しかしながら、予告編による予備知識があったためか、あるいはストーリー展開が素直に読めるためか、少しホロッとほしたものの、意外に涙グショグショとはならなかった。

この作品のテーマは、7歳の知能しかもっていない知的障害者の父親サム・ドーソン(ショーン・ペン)と7歳の娘ルーシー・ダイヤモンド・ドーソン(ダコタ・ファニング)との愛情物語。

#### <7歳の知能しかない父親と成長して7歳になった娘>

知的障害をもっているものの、サムはスターバックスのコーヒー店で真面目に働いている。砂糖などの袋を1セット毎にそろえたり、スターバックスの名前が見えるようにマグカップを丹念にそろえる。その手先の器用さや几帳面さは大したもの。また、客の注文を忘れないように、いちいち口に出して確認する真剣な作業は、「健常者」も見習う必要がある。店長も、サムにはやさしい。だから、サムはきわめて安定した生活を続けていた。

しかし、娘が生まれてからは大変だ。娘はホームレスの若い女性との間に生まれたが、その事情は特に突っこまなくていい。男手1つで子供を育てるのは当然大変。しかし、サ

ムの隣人のアニーおばさん（ダイアン・ウィースト）や、サムと同じような知的障害をもった仲間のA氏、B氏、C氏らの協力で、サムは何とか「子育て」をこなし、ルーシーは何の事故もなく、スクスクと育った。

そしてルーシーは今は7歳。見るからに可愛く、愛らしい女の子に成長した。もちろん、7歳だからまだ子供だが、どこか一本シシが通っており、言うことにやけに大人びたところがある。これは父親が頼りないせいかもしれない。すると、今後ルーシーがどんどん成長していけばどうなるのか？知的障害のあるサムのもとの、ルーシーは今後もちろんとした教育を受け、礼儀作法を学び、成長していけるのか？ましてや、ルーシーは女の子。女の子から女性へと変化していく過程への対応や、微妙な思春期をどのように迎え、どのように乗り切っていくのか？当然、学校の先生をはじめ周りの人たちは不安の目で見ていた。そして、その不安はついに現実化した。

ルーシーの成長は早い。既に自分の知能が父親サムの知能と同じか、それ以上になったことを悟ったルーシーは、それ以上の知識や能力を身につけることを拒もうとした。そのため勉強することを拒否。サムと2人だけの童話の世界に留まろうとしてしまった。

### <養育能力なしと判断された場合は・・・>

危険を察知したルーシーの担任教師は、ソーシャル・ワーカーに連絡。ソーシャル・ワーカーは直ちに実態を調査。その結果、「ルーシーのため」に、養育能力がない父親サムからルーシーを引き離し、ルーシーを「ちゃんとした」施設に保護する方針となった。サムの面会は、認められたものの週2日だけ。泣き叫ぶ2人を法制度、行政制度という壁が引き裂いた。もちろん、これは正式の手続によるものだし、あくまでルーシーの成長や将来を考えての国家による親心だ。そしてこれは、基本的には日本でも全く同じルールだ。

### <サムと「一流」「女性」弁護士との出会い>

サムはルーシーを取り戻すため法廷闘争を決意し、弁護士を捜す。しつこく追っかけて、ようやくサムの代理人となった弁護士は、超一流、超多忙、超高収入、かつ超美人の女性弁護士リタ（ミシェル・ファイファー）。もともと彼女は、サムのような得体の知らない、話を聞いていても実にまどろっこしい依頼者の、そしてまた、訴訟に勝っても何の名誉も獲得できないうえ、報酬の支払いもおぼつかないことミエミエのこの事件をやりたかったわけではない。しつこく事務所を訪ねてくるため、サムの顔を知ってしまった事務所のスタッフに対して、金儲けばかりではなく、社会奉仕的な仕事（大阪弁護士会ではこれを「プロボノ活動」と呼んでいる）もしていることを示すため、やむなく、イヤイヤ受任した事件だ。

「サムには知的障害があるものの、子供を育てる上で最も大切なものは愛情だ。サムとルーシーは父娘の強い愛情で結ばれている！」と、リタは法廷で熱弁をふるう。いくら無料奉仕の事件であっても、引き受けた以上、頑張って勝訴しなければ「一流」の名前にキズがついてしまう……。そんな思いで、リタは頑張っていたのだと私は思う。

私は「一流」弁護士ではないが、弁護士としてのプライド、自負心という意味では、リタに負けないつもり。従って、私も同じような体験が何度もある。だからリタは、きっとそういう気持ちだっただろうとよくわかる。ところが、そんな弁護士の努力にもかかわらず、依頼者が勝手なことをすることはよくある。これには本当にアタマにくる！私も何度もなく経験したことだ。

サムは、一方で弁護士に依頼して法廷闘争を展開しながら、他方でルーシーとの面会の日、ルーシーと一緒に、何と、逃げてしまったのだ。これはルーシーの提案にサムが乗ってしまったものだが、言ってみれば所詮、7歳程度の知恵によるもの……。やむを得ないといえばそうだが、担当弁護士としては「やってられねーよ！」となるところ。もちろん、リタは激怒。ヒステリックなほどにサムを叱りつけた。

## ＜リタも人の子＞

他方、リタも人の子。夫もいれば息子もいた。社会的成功と物質的豊かさの反面、いつも時間に追われ、夫婦もすれ違いが多い。さらに依頼者の話は必要な限りトコトン聞くが、息子との語り合いの時間はなかなかとれない。

ちなみに私の家庭は妻と子供2人だが、実によく似ている。それは余談として……。

リタは、サムを出来の悪い依頼者だと思っていたし、ルーシーの養育権をめぐる訴訟についても社会的注目もなく、報酬ももらえない、つまらない事件だと思っていた。

しかしリタは、サムとの打ち合わせのたびに、サムの示す人間としての純真な心や、ルーシーへの純粋な父親としての愛情に畏敬の念を抱くようになってきた。自分が必死になって獲得し、維持している社会的地位や高収入と、サムがルーシーに示す純粋で大きな愛情。果たしてどちらが大きな価値があるのだろうか、と考えるようになったのだ。そしてある日、夫と大ゲンカをしたリタは、サムの胸ことび込んで涙を流すのだった。

## ＜里親ランディの登場＞

ルーシーは可愛くて、知的で実に魅力ある女の子だ。従って子供のいない、ある夫婦がルーシーの里親になることを希望した。その母親がランディ（ローラ・ダーン）だ。ランディは、ルーシーに実の子同様、いやそれ以上の愛情を注いで養育した。利口なルーシーは、

それがよくわかっていた。しかし、ランディに対する感謝の気持ちと、父親サムへの愛情は別モノだ。

しつこいサムは何と、このランディが住む家の隣に引っ越してきた。するとルーシーは、夜毎、自分の部屋のベランダから外に出て、サムの部屋へ……。これがいつまでもバレない筈はない。怒り狂ったランディは・・・?となるところのだが、実はそうではなかった……。ランディがルーシーに示す愛情は実に奥深い。ランディという女性は本当にすばらしいと思う。

### ＜訴訟の行方は？＞

いよいよサムが法廷に立って証言する日がやってきた。その日に備えての弁護士と依頼者との綿密な打ち合わせ。これが大事だ。さすが一流の弁護士はやることをきっちりやっている！！おっと、ついつい弁護士としての感想が出てしまったかな……。弁護士リタは、サムという「出来の悪い」依頼者を、特訓によって一人前の証人に立派に仕立てあげた。打ち合わせでは、サムの出来は上々だった。ところが本番の日。その日に限って仕事が忙しく、ギリギリまでスターバックスの店で仕事をさせられたサムはあわてて飛び出すが、せっかくリタから借りたスーツ（正確にはリタの夫のスーツを、リタが勝手にサムに貸したもの）にコーヒーをこぼしたうえ、法廷での証人調べの開始時刻にも遅刻。前途多難な尋問のスタートだ。

### ＜サムの熱弁。そして訴訟の結果は・・・＞

一流弁護士の手によって証人尋問のシナリオは練られていた。出来の悪い「役者」のサムも、訓練よろしく丹念な打ち合わせによって、十分合格できる証言ができるころまで到達していた。その上、いい仕立てのスーツを着て、サムの見栄えもそれなりのものになっていた。にもかかわらず、服は汚すわ、時間には遅れるわでは、シナリオ通りにはコトは運ばない。打ち合わせとは違う事態が次々と発生。そして、訴訟の結果は・・・？映画の結末は・・・？それは、映画を見てのお楽しみとしてください。

### ＜全編を流れる、ビートルズナンバー＞

サムはビートルズが大好き。サムと同じ知的障害者のA氏、B氏、C氏もそう。映画のバックには、節目節目にビートルズの曲が流れる。ちなみにルーシー・ダイヤモンドという名前も、ルーシーが生まれた時、看護婦から「名前をどうしますか？」と聞かれ、サムがとっさにビートルズナンバー『Lucy In The Sky With Diamonds (ルーシ・イン・ザ・スカイ・ウィズ・ダイヤモンド)』の曲を思い出したため、その曲名に沿ってつけたもの。それほどサムとビートルズナンバー、そしてこの作品とビートルズナンバーは、切っても切れないものとなっている。『I am Sam』(アイ・

アム・サム) のオリジナル・サウンドトラックは、すべてビートルズナンバーで20曲入りのもの。楽しいよ。是非聞いてみて。

### <おわりに>

7歳の知能しかない父親に7歳の女の子の養育権を認めるべきか否かという問題=この映画のテーマは、私が弁護士という立場で法的に考えてみても微妙ですごく難しい問題だ。

しかしこの映画はそういう難解な議論にトコトン突っ込んでいくのではなく、サムの父親としての愛情とルーシーの父親に対する愛情を軸として実にうまくストーリーをつくっている。そしてそのストーリーに大きなインパクトを与えているのが美人弁護士リタの好演技。

敏腕弁護士の姿と人間味あふれる悩めるキャリアウーマンの姿を、一方では実にカッコよく、他方では実にユーモラスに演じている。もちろんショーン・ペンの名演技はいうまでもない。そしてルーシーを演じたダコタ・ファニングは本人も7歳とのこと。目のクリクリとした本当に可愛い女の子で実にすばらしい子役だ。そしてその演技はとても子供のものとは思えないほど洗練されている。

人生がイヤになったり、仲間とケンカしたり、人間不信に陥った時などに観ればきっと元気が湧いてくる名作。『ライフ・イズ・ビューティフル』(98年度作品)ほど涙グショグショにはならず、少しホロツとして、心がほのぼのと温かくなる名作。

すべての皆さんにおすすめだ。

2002(平成14)年8月16日記